

果樹情報 第6号 (R8. 6. 10~R8. 6. 23)

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ(すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区)

1 果樹の生育状況

果実肥大について、なし「幸水」「豊水」は暦日対比で平年よりやや大きく、りんご「ふじ」は6月1日の暦日対比で平年より大きい状況です。もも「あかつき」は調査園変更により参考値となります。

表1 管内の生育状況(6月2日現在)

樹種	品種(調査地点)	本年		平年		平年比	
		縦径 mm	横径 mm	縦径 mm	横径 mm	縦径	横径
りんご	ふじ(須賀川市浜尾)	32.1	31.7	27.3	25.2	118	126
	ふじ(鏡石町高久田)	30.2	27.7	25.9	23.6	117	117
	ふじ(石川町沢井)	28.9	28.2	24.3	21.9	119	129
	つがる(石川町沢井)	32.7	33.2	25.6	25.8	127	128
	ジョナゴールド(石川町沢井)	30.2	31.0	26.3	26.3	115	118
	シナノスイート(石川町沢井)	27.9	26.5	26.2	25.3	106	105
もも	あかつき(須賀川市江持)	41.8	36.0	35.9	29.0	116	124
なし	幸水(須賀川市越久)	21.1	25.2	20.3	22.3	104	113
	豊水(須賀川市越久)	24.5	27.2	22.1	23.4	111	116

鏡石町のりんご「ふじ」は1998~2025年の28年の平均、石川町のりんご「シナノスイート」は2017~2025年の9年間の平均を平年値としている。そのほかの平年値は1996~2025年の30年間の平均。

2 各樹種における栽培上の留意点**(1) 共通****ア かん水**

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6~7mm、曇天日で2~3mm、平均で4mm程度ですので、1回のかん水は25~30mm程度(10a当たり25~30t)を目安とし、5~7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくし、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) なし**ア 仕上げ摘果**

仕上げ摘果は、満開後50~60日までに実施します。この際、樹勢の低下や果実肥大の鈍化が観察される場合は新梢停止期前(満開後60~70日)に小玉果を中心に摘果し、適正着果量に調整しましょう。

イ 新梢管理

「幸水」で副芽枝(果そう葉)新梢の飛びだしが多い場合はこれを摘心します。副芽枝を摘心する場合は側枝基部20~40cm程度を目安とし、ロゼット状の基部葉とその上位2~3節を残して摘心を行うと果実肥大と花芽形成に効果が期待できます。

「豊水」では、満開後60日頃に新梢伸長が緩慢となる予備枝は、翌年の果実肥大と果形がよいので、直ちに誘引を開始しましょう。

また、下垂したり枝越しとなった新梢は方向を修正するとともに、側枝先端部の新梢が倒れた場合には立てるように誘引し、受光態勢や薬剤の通りを良好にしてください。

表2 なし「幸水」の摘果方法

作業名	時期	内容
仕上げ摘果	満開後 50 日 ～60 日頃 (6/5～6/15)	・果実をよく観察し小玉果・サビ果・変形果を中心に摘果し、果梗が長く果形の良い果実を残します。最終着果量の 10～20%増しにしましょう。 ・長果枝で2.5果そうに1果残します。 ・短果枝で3果そうに1果残します。

(3)りんご

ア 仕上げ摘果

仕上げ摘果は満開 60 日後までを目安に実施してください。果形や肥大状況等をよく観察しながら実施し、形質の良い果実を残しましょう。仕上げ摘果の程度は、「つがる」では3頂芽に1果（1果当たりの必要葉枚数 45 枚）、「さんさ」、「シナノスイート」、「陽光」、「王林」、「ふじ」は4頂芽に1果（必要葉枚数 60 枚）を目安とし、樹全体でその1～2割増しとしてください。また、仕上げ摘果の遅れは花芽分化率低下の原因となるのでご注意ください。

結実の少ない園地は着果数の確保を優先し、著しい不良果そうを対象に最小限度の摘果を行います。

「つがる」は、大玉果にすると日持ちが悪くなるので、中玉生産を目標に摘果を実施する。「陽光」はサビの発生状況をよく確認して摘果する。「王林」は樹勢が落ち着くと花芽着生が多く着果数が多くなりやすいので仕上げ摘果を徹底しましょう。

イ 新梢管理

主枝や亜主枝（骨格枝）の基部付近の背面から発生した徒長枝をせん除し、日当たりを確保するとともに薬剤の通りを良好にしてください。

表3 りんご「ふじ」の樹勢別の摘果方法

作業名	樹勢	着果量	時期の目安	注意事項
仕上げ摘果	適当	4頂芽に1果	満開後 60日 (6/22 頃)	・樹勢の弱い樹は早めに、強い樹は最後に行います。 ・上枝や立ち枝は多めに、下枝や下垂枝は少なめに着果させ果実の肥大を調節しましょう。
	強い	3頂芽に1果		
	弱い	5頂芽に1果		
修正摘果	適当	4～5頂芽に1果	6月下旬～ 8月下旬	・果形不良、肥大不良、青果、枝ずれ、虫害果などを適宜摘果します。 ・夏季せん定程度や葉の状態をよく観察し、着果過多にならないよう最終着果量を決定しましょう。

(4)もも

果樹研究所の「あかつき」は、近日中に硬核期が開始する見込みなので、仕上げ摘果が完了していない園地では速やかに実施しましょう。

双胚果や核障害の発生は、園地や品種によって異なるので、園内の状況を確認した上で摘果作業に当たってください。なお、双胚果や核障害の発生が多い場合は、仕上げ摘果時に着果量をやや多めとし、障害が明らかになる硬核期終了後に修正摘果で適正着果量としましょう。

3 病虫害防除上の留意点

降雨が続くと病害の発生が懸念されるので、病虫害防除を徹底してください。特に、モモせん孔細菌病、ナシ黒星病の発生には十分注意してください。

(1)りんご褐斑病

落花 30 日後頃は本病の子のう胞子の飛散盛期であり、重要防除時期にあたるため、防除暦に従い防除を実施してください。

(2)りんご腐らん病

梅雨期は感染拡大のおそれがあるため、発生状況をよく観察し、発病部位は徹底して取り除きましょう。摘果後に果柄が残っている場合、そこから病原菌が侵入するため、仕上げ摘果の際は、離層形成部位から摘果するように心がけましょう。

(3)ももせん孔細菌病

梅雨期に入り降雨が多くなる場合、二次感染により発病が増加するおそれがあるため、引き続き注意が必要です。薬剤防除に当たっては、10日間隔でせん孔細菌病防除剤を使用しましょう。その際、早生種は収穫前日数に十分注意してください。

また、罹病部位は見つけしだい取り除き、発生拡大が懸念される場合は速やかに袋かけを行いましょ

(4)もも灰星病、ホモプシス腐敗病

梅雨期に入るとホモプシス腐敗病の重点防除期に入るため、伝染源となる芽枯れや枝枯れが認められる場合はせん除し適切に処分しましょう。また、灰星病も梅雨期が重点防除期であり、本病は果実の成熟とともに感染しやすくなるため、伝染源となる花腐れを除去するとともに、防除暦に従い6月中旬以降に両病害に防除効果の高い薬剤を使用しましょう。

(5)なし黒星病、輪紋病

5月中下旬の黒星病の果そう基部病斑の発生ほ場割合は、昨年と比較すると高く、また、果実での発生が広域的に確認されている（5月29日付け病害虫防除情報）ことから、今後の発生拡大が懸念されます。

梅雨期は、二次感染により本病の発病が増加するおそれがあるため、罹病部位は見つけしだい取り除くなど、耕種的防除を徹底しましょう。特に、「幸水」では満開後50日頃から本病に対する果実の感受性が高まり、重要防除期となるため、防除対策を徹底しましょう。

また、輪紋病も梅雨期が重点防除期になるため、6月上旬から両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布します。多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行ってください。



図1 果そう基部病斑



図2 発病葉



図3 発病果

(6)カメムシ類

越冬世代成虫による加害は幼果期から始まる場合があるので、特に山沿いの園地ではカメムシ類の飛来状況をよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行きましょう。管内のトラップにおける誘殺状況は表4のとおりです。

表4 JA 夢みなみ・須賀川農業普及所カメムシトラップ調査結果

調査日	須賀川市 和田六軒			須賀川市 越久			鏡石町 高久田			石川町		
	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考
6/1	40	0		39	2		38	0		5	0	
6/8	5	0		2	0		34	0		2	0	

(7)モモハモグリガ

第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、5月6半旬頃と予測され、第2世代の防除適期は6月1半旬頃と推定されます(表5)。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意しましょう。



図4 モモハモグリガによる食害(絵描き症状)

(8)ナシヒメシンクイ

第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、6月2半旬頃と予測され、第2世代の防除適期は6月4半旬頃と推定されます(表5)。

本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生(芯折れ症状)し、第2世代以降はナシなどの果実に移行します。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守してください。

(9)モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているモモ園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、防除暦に従い6月上旬頃から10日間隔で2~3回防除を行いましょ。被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めましょ。また、前年に被害が多発した園では袋かけを早急に実施ましょ。

(10)ナシマルカイガラムシ

ナシマルカイガラムシ第1世代のふ化盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、6月2半旬頃と推定されます(表5)。

カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除ましょ。ただし、1回の防除では十分でないため、1週間から10日後にもう1度防除することが望ましいです。

(11)ハダニ類

ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行いましょ。

表5 果樹研究所における防除時期の推定(令和8年5月29日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ		ナシマルカイガラムシ	
	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	第1世代 ふ化開始	第1世代 ふ化盛期
2℃高い	5月27日	6月1日	6月10日	6月19日	5月28日	6月6日
平年並	5月27日	6月1日	6月13日	6月23日	5月28日	6月8日
2℃低い	5月27日	6月2日	6月17日	6月29日	5月28日	6月11日

起算日: モモハモグリガ越冬世代誘殺盛期 4月14日

ナシヒメシンクイ越冬世代誘殺盛期 4月16日

ナシマルカイガラムシ 3月1日(演算方法は三角法)

作成者: 県中農林事務所須賀川農業普及所
電話: 0248-75-2181 FAX: 0248-72-8331

ご不明の点は、最寄りのJAまたは須賀川農業普及所にお問い合わせください。次回の発行予定日は、6月24日(水)です。